

こんにちは 在宅介護支援センター です..

◆来所・有線電話相談
月曜日～金曜日 8:30～17:00
有線 8200

◆電話相談（24時間対応）
電話 62-8200
尚、お急ぎでない方は、出来るだけ平日の昼間をお願いします。

「最近の痴呆性高齢者の介護について」 その ②

10月に引き続き「痴呆性高齢者の介護について」お伝えします。今回は、『痴呆性高齢者のケア7原則』についてお伝えします。

＜痴呆介護の7原則＞

先月号で痴呆性高齢者は、本人にとって心地よい環境と、自然の対応が落ち着くという事を述べましたが、今回は、具体的な対応方法のポイントについてお伝えします。



痴呆のケア7原則 その ① 環境を変えない

定年退職・入院・退院・家の建て替え・転居・施設入所・部屋がえなどの環境の変化が、痴呆発症の引き金になることがよく見られます。それだけでなく、高齢者は、身体的変化や人の手を借りなければならない状況など、老化に伴って起こる様々な変化に直面し、大きなストレスを抱えています。なるべく環境を変えないようにしたいものです。

痴呆のケア7原則 その ② 生活習慣を変えない

「畳に布団の生活から、急にベッドに変えたら、落ち着きがなくなった。」などの話をよく聞きます。安易に習慣を変えないことです。

痴呆のケア7原則 その ③ 人間関係を変えない

都会に住む子供の家に引き取られたりして、環境が変わり、それまでの人間関係がなくなってしまうことで高齢者を痴呆に追い込むことがあるので、要注意。

痴呆のケア7原則 その ④ 身体不調を見逃さない

便秘・脱水発熱・持病の悪化等が原因で痴呆性高齢者は落ち着きをなくすることがよくあります。いつもと様子が違うなと思ったら、身体の状態を常に観察することが大切です。



痴呆のケア7原則 その ⑤ 個性的空間を作る

昔から使い慣れた、なじみの家具や、思い出の写真等を並べ、本人の落ち着いた環境づくりに勤めましょう。

痴呆のケア7原則 その ⑥ 役割を作る

高齢者を痴呆に追い込まないためには、一人一人に役割をつくり、現在の自分を自分だと感じられるようにすることが大切です。自分の役割がちゃんとあり、誰かの役に立っていることを実感できると、表情が良くなり痴呆の症状がなくなることがよくあります。

かつてやっていたこと・今でもできることをしていただき、周りが認めることが肝心です。

痴呆のケア7原則 その ⑦ 一人一人の関係づくり

「痴呆性高齢者を受け入れられないのは、わたしがわるいからではないか？」と介護している家族は悩みます。しかし、最も頼りにしている家族に問題行動を起こすとも言われています。人間関係が近いからこそ難しいのです。時々しか顔をあわせない親族や、デイサービスのスタッフに対しては、家族に見せないような笑顔が出る事がありますか？こうした、相性のいい関係が増えてくると、家族との関係もうまくいくことが多いようです。